

住民アンケート意向調査等により複合施設（シヨップینگセンター）等の併設や、図書館・文化的施設・児童公園などの建設要望があり、将来性を考慮

五、村民が利用するうえでの利便性を考慮

河陽地区は村の中心に位置しており、道路網等が整備され、ゆるっとバスの拠点・南阿蘇鉄道と隣接「新駅新設」など利便性に富む

六、将来を見据えた整備事業費の比較

外部有識者の様々な検討の結果、増改築案との事業費に大差がなく、また将来の投資・維持管理費を考慮しても財政に与える影響は変わらない状況と捉える

このように様々な検討を重ね、目先だけでなく、これからの30年50年、将来に夢と希望を託し、気持ちよき寄せ合い、仲良く合併し誕生した南阿蘇村が活力を保ち発展するには庁舎はどうあるべきか熟慮を重ねてきました。

その結果、村民皆様が「わがふるさと」と胸を張れる「豊かな活力ある村づくり」を進める上で、合併協議会の決定を尊重し、河陽新築案を採用することが最も有効であり、新庁舎を整備する結論に至りました。

H21/6~21/11

H21

建設計画凍結の経緯

平成17年2月合併後庁舎建設を推進するにあたり、学識経験者・職員で構成する庁内の庁舎建設特別委員会において16回の協議会を開催。
また議会においては庁舎建設特別委員会を設置・合同の委員会を9回行い平成18年度で実施設計まで終了。平成21年1月開庁をめざした。
しかし、国の三位一体の改革の中、交付税の見直し・財源移譲・補助金の見直し等先行き不透明な財政状況に至った。
そんな中、今村村長は行財政を優先いたし庁舎建設を一時凍結し平成23、平成24年に延期したい旨を平成19年6月議会で表明。

長野村政誕生

議会早期実現代替え案提言

議会庁舎整備特別委員会
一時凍結から2年が過ぎた。早急に一元化を進めるため庁舎整備特別委員会を議会に設置。
合併協議会での本庁方式を重視し、かつ財政負担の軽減・早期の一元化を目指し協議・決定・久木野庁舎改築統合案提言。

議会の提言に対する執行部の回答

庁舎一元化は、一日も早く解決しなければならぬ課題と認識している。
執行部の方針決定には、提言内容にもある村民の利便性や行政執行の効率化、既存庁舎の耐用年数・耐震性の専門チームによる調査・財源の精査等一定の時間を要する。
健全な財政運営を第一に、村民皆様の多くの意見に従い、議会と相談し進めたい為、正式回答まで、調査と検討の時間をいただきました。

H25第4回定例議会

有識者委員会による調査報告書の一部

大項目	評価項目	新庁舎案	既存庁舎利用案
防災・危機管理	地震対策	○	○
	火山噴火対策	○	○
	土石流災害対策	○	
	統合的防災拠点性能	○	
行政サービス	地域運営を支える政策執行力 業務効率向上	○	
施設の運用・管理	維持保全・設備更新の優位性 ライフサイクルコスト	○ ○	
整備事業費	初期投資 長期的な財政負担 計画の将来対応性・耐久性	○ ○ ○	○
村への波及効果	民間活力事業の可能性	○	
	機能拡張余地 生活支援機能拠点の契機	○ ○	
	南阿蘇の玄関口としての象徴性	○	○

村長 新庁舎整備案示す

議会庁舎整備特別委員会設置
※右記に掲げるような状況を鑑み、住民の意見要望を庁舎建設に反映するべき議会特別委員会を、議員発議により設置。

村長「執行部」庁舎整備計画案及び理由説明。
※紙面上部に掲載しています。